

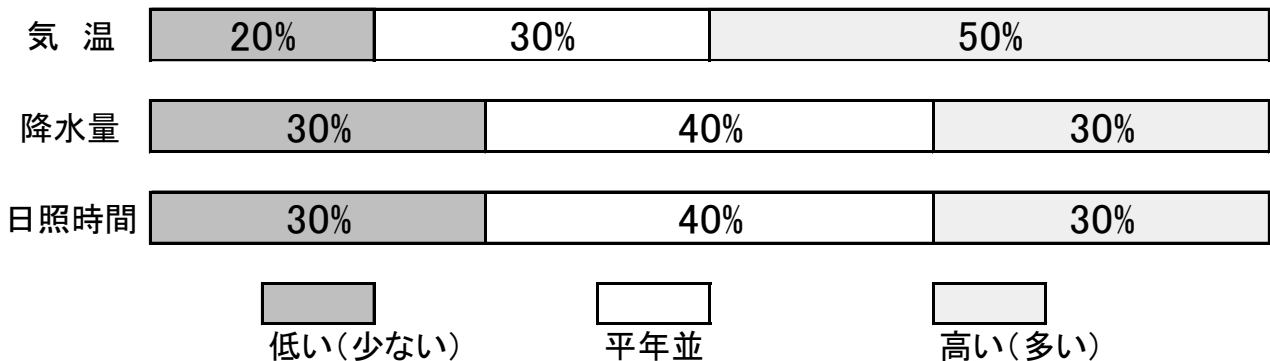
# 令和3年度 病害虫発生予察情報

## 発生予報第3号（6月）

令和3年5月31日  
島根県

| 予報の概要 |      |               |          |
|-------|------|---------------|----------|
| 区分    | 農作物名 | 病害虫名          | 予想発生量    |
| 普通作物  | イネ   | ヒメトビウンカ       | 平年並～やや多い |
|       |      | ニカメイチュウ       | 平年並～やや多い |
|       |      | イネミズゾウムシ      | やや多い     |
|       |      | セジロウンカ        | やや多い     |
| 果樹    | ナシ   | 黒斑病           | 平年並～やや多い |
|       |      | 黒星病           | 平年並      |
|       |      | シンクイムシ類       | 平年並      |
|       |      | ハマキムシ類        | やや多い     |
|       |      | ハダニ類          | 平年並～やや多い |
| 野菜    | カキ   | カキクダアザミウマ     | 平年並      |
|       | タマネギ | ポトリフス属菌による葉枯れ | 平年並      |
|       |      | べと病           | 平年並      |
|       |      | 腐敗病・軟腐病       | やや多い     |

中国地方1か月予報(5月29日～6月28日・広島地方气象台5月27日発表)  
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) ヒメトビウンカ

##### 予報内容

|      |          |
|------|----------|
| 発生地方 | 県内全域     |
| 発生時期 | 平年並      |
| 発生量  | 平年並～やや多い |

##### 予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認められない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は6.52%（平年5.26%）、捕獲数は0.07頭/50株（平年0.11頭）と発生量は平年並みである。
- ③ 越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は定点調査では0%（平年1.3%）と低いものの、一部の縞葉枯病発生地域では保毒虫率が高い。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(2) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 やや遅い  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は4月第6半旬と平年並みである。5月第5半旬までの誘殺数は4頭(平年12.2頭)と平年並みである。
- ② フェロモントラップへの5月第5半旬までの誘殺数は34頭(平年67.1頭)と平年並みである。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯への飛来は10頭(平年12.0頭)と平年並みで、越冬量は平年並みと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は4月第4半旬と平年に比べてやや早い。5月第5半旬までの誘殺数は42頭(平年33.3頭)と平年並みである。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は37.0%(平年25.6%)、捕獲数は0.96頭/50株(平年0.56頭)と発生量は平年並みである。
- ③ 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は61頭(平年77.6頭)と平年並みで、越冬量は平年並みと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(4) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域  
飛来時期 早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への初飛来は5月第4半旬と平年に比べて早い。
  - ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.17%(平年1.07%)、捕獲数は0.02頭/50株(平年0.02頭)と発生量は平年と比べてやや多い。
  - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。
- 注) 令和3年度 ウンカ情報 第1号 病害虫防除所HP参照。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率1.1%(平年1.2%)と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0%(平年0.1%)と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 やや早い  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月5日と平年と比べてやや早い。
- ②フェロモントラップでのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。
- ③前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みで越冬量は平年並みと考えられる。
- ④向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月5日と平年と比べてやや早い。
- ②フェロモントラップでのハマキムシ類の誘殺数は平年と比べてやや多い。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

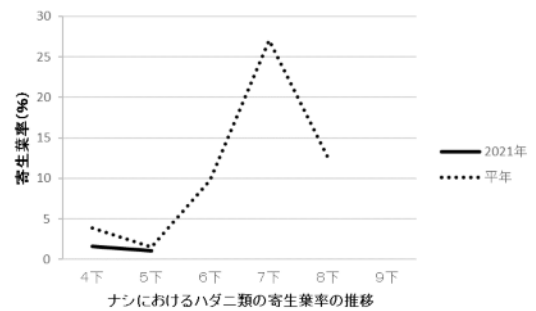
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量は少ない。
- ②5月下旬の巡回調査(安来市)では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は1.1%(平年1.5%)と平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月上旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
- ②5月7日の巡回調査では本種による巻葉被害が認められた。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率35.0%(平年14.1%)、発病株率0.6%(平年0.5%)と、発生量は平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率60.0%（平年63.8%）、発病株率10.4%（平年17.0%）と、発生量は平年並みである。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

注) 令和3年度 病虫害発生予察情報 技術情報第1号 参照。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率75.0%（平年40.0%）、発病株率5.1%（平年3.8%）と、発生量は平年に比べてやや多い。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

注) 令和3年度 病虫害発生予察情報 技術情報第2号 参照。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病虫害防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

[http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)

e-mail [boujyo@pref.shimane.lg.jp](mailto:boujyo@pref.shimane.lg.jp)